

令和7年度若手奨励研究

訪問看護師の教育に関する研究

看護学部 平塚淳子

背景

43.8%の国民
「最期を迎えたい場所」は
「自宅」と回答

出典：厚生労働省「令和4年度人生の最終段階における医療・ケアに関する意識調査報告書」

https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/saisyuiryo_a_r04.pdf

訪問看護の利用者

訪問看護利用者の特徴

- ◆医療ニーズが高い
- ◆重度の障害のある小児、精神障害、認知症など多様化
- ◆介護保険利用者数が医療保険利用者より多い

出典「2040年に向けた訪問看護のビジョン」策定にあたって
https://www.nurse.or.jp/nursing/assets/vision_of_visiting_nurses.pdf

訪問看護従事者数

訪問看護アクションプラン
2025年までに訪問看護師数
15万人を目標

訪問看護アクションプラン2025の評価と課題. 全国訪問看護事業所協会
<https://www.zenhokan.or.jp/wp-content/uploads/actionplan2025-problem.pdf>

2040年を見据えた訪問看護のあり方に関する提案

I 訪問看護事業所の基盤強化

II 訪問看護の機能拡大

III 訪問看護の質の向上

IV 地域共生社会に向かう地域包括ケアシステムの深化・推進

出典：日本看護協会、日本訪問看護財団、全国訪問看護財団

<https://www.zenhokan.or.jp/wp-content/uploads/2040-proposal.pdf>

看護師の倫理綱領の改定

- ◆ 病院完結型医療から地域完結型医療への転換により、どのような場においても、看護職は適切な保健・医療・福祉を提供し、人々の生活の質が高まるように機能しなければならない
- ◆ 医療の高度化や、治療・療養の場が病院から人々の住み慣れた地域に移行する中で、看護職の活躍する場が拡大し、これまで以上に高い能力を発揮することが求められている

出典：看護職の倫理綱領 日本看護協会（2021）

https://www.nurse.or.jp/nursing/rinri/rinri_yoko/index.html

看護師の倫理綱領の改定

- ◆人々の健康や人生に対する価値観の変容等に伴い、人々の権利に対する考えも多様化し、近年では最期までその人らしくよりよく生きることも権利である
- ◆看護職が対象となる人の意向を尊重し、その家族や多職種等と十分な話し合いを通じて合意形成した上で、最善の選択ができるよう支援する
- ◆地域で暮らす人々の健康を支えるためには、看護職は保健・医療・福祉関係者と連携・協働することが必要である

出典：出典：看護職の倫理綱領 日本看護協会（2021）

https://www.nurse.or.jp/nursing/rinri/rinri_yoko/index.html

訪問看護師の困難感

自身がない中での看護実践
医師との連携の問題
高くなる判断の難易度
訪問看護ゆえの制約と質と両立

出典：藤田俱子，笹美佐 訪問看護師が感じる困難に関する文献検討
(2024) 千里金蘭大学紀要. 21, 63-071.

訪問看護師の困難感

単独訪問からくる困難さ、
訪問看護の知識・技術不足からくる不安や困難さ
職場の勤務体制からくる困難さ
医師との連携への困難
職場の人間関係からくる困難感
身体的負担が大きいことの困難さ

訪問看護師の教育

教育方法として同行訪問および事例検討会に分かれ、新人訪問看護師教育の評価については様々であった。

出典：山田ら. 日本の新卒・新人訪問看護師に対する職場内教育プログラムの文献検討. (2022) 日本在宅看護学会誌. 11. 1. 52-61.

考察

生活の場で看護を行う訪問看護師は、単独での訪問にかかわる判断、医師との連携など多くの課題を有している。

また、教育プログラムの内容および評価も多様であった。

それらの課題を解決するために、さらなる調査を行い、

教育内容や方法の検討が必要であると考ええる。